



現状を確認して未来を語る

つなぎ地区でまちあるきワークショップ

10月5日、つなぎ地区でまちあるきワークショップが行われました。

現在、地域づくり計画の策定に取り組んでいる、つなぎ地区振興福祉推進協議会（高橋金兵衛会長）が主催したもので、この日は約40人が参加しました。

つなぎ地区の全域を、バスの車窓から見て回ったり、実際に歩いてみたりしながら、地区のよいところ、直したいところなどをそれぞれに記録。参加者全員で現状を確認しながら、アイデアをメモして回ります。

その後、つなぎ地区活動センターでワークショップを開催。6つのグループに分かれ、現状やアイデアを書き出して、意見を交換。最後にグループごとに発表を行い、皆さんで共有



しました。

つなぎ地区では11月11日にも同様のワークショップを開催予定。3月までの地域づくり計画策定に向けて取り組みを加速させています。



～渋民地区で～

啄木講座（第7回）歌碑めぐりが

開催されました



渋民地区自治会連絡協議会（佐々木由勝会長）は、9月29日、啄木講座（第7回）歌碑めぐりを開催しました。

この講座は、同協議会が進める「～石川啄木と自然を活かした里づくり～」の実現に向けて、改めて地域の人間が啄木について学び、理解を深めることで、地域振興につなげたいと行われているものです。

今回は、その7回目の講座で、市内一円にある啄木の歌碑をめぐり、学習する内容となりました。



当日は、地域の方など約20人が参加し、講師の元石川啄木記念館館長、嶋千秋（しまちあき）さんの先導の下、渋民公民館をスタートし、渋民周辺の歌碑を見学。

その後、バスで市街地へ移動し、天満宮や中津川沿いの歌碑を散策しました。

参加者たちは、普段何気なく通っている場所にある啄木の歌碑に、驚きを示しながら、啄木への理解・関心を一層深めている様子でした。

防災訓練&世代間交流会が開催されました

東厨川地区福祉推進会（佐藤 栄一会長）では、10月6日に厨川地区活動センターを会場に防災訓練を開催しました。

当日は、小学生を含め地域の方約300人が参加し、AEDの使用方法や、煙の中での避難方法、非常時に備えた炊き出しなど、具体的な訓練が行われました。

また、新聞紙を利用した食器づくりも行われました。訓練終了後は、世代間交流会として各自で製作した食器をさっそく活用し、沿

岸から直送されたさんまと、訓練で炊いたご飯を食べながら、今回の訓練の成果を家族や近所の皆さんで話し合う姿が見られました。

